

## フィリピン文献目録に関する注釈ノート

ジョイ・バリオス

調査研究「ジェンダーとミタリズム：フィリピンの経験」に取り組むにあたって、これまでどのような研究がなされ、また伝記的 / 自叙伝的な物語が書かれているかを明らかにする必要がある。注釈を付したこの文献目録では、82 の文献を次のカテゴリーに分類して掲載している。

- I 女性、植民地化、そして戦後 (1896-1945)
- II 戒厳令期の女性と軍事化 (1972-1986)
- III 現代の女性と軍事化 (1986-2005)
- IV 軍事化に関するその他の資料
- V フィリピンにおける売春に関する資料
- VI フィリピン女性に関するその他の有益な資料

文献をカテゴリーに分類するにあたっては、歴史的なアプローチをとった。なぜならフィリピン女性の生は、他国による植民地化と占領、戒厳令によってもたらされた政治的変化、軍事基地と低烈度紛争に関する政府政策、米軍一時駐留協定 (VFA) などに大きな影響を受けてきたからだ。また一方では、二つのカテゴリーを加えた。売春という具体的なトピックに関してこの文献目録を利用しようとする研究者のために、フィリピンにおける売春という特別な項目を加えた。またフィリピン女性についてより理解を深めたいと考える人のために「フィリピン女性に関するその他の有益な資料」という項目を加えた。

文献を選び出すにあたって私は次のようなことを念頭に置いた。その文献が十分なデータ、背景的な情報とそれに関する洞察を研究者に与えるかどうか。その文献が印刷物かデジタル・データの形で研究者にとって入手可能かどうか。その書籍、あるいは論文が信頼できる大学、機関、出版社、研究所によって出版されているかどうか。

今回、2種類の資料について検討した。つまり上述したカテゴリーはそれぞれさらに二種類に分かれる。一つは自叙伝的あるいは伝記的物語であり、もう一つは研究資料である。これらの自叙伝的あるいは伝記的物

語は女性が研究者や調査者の干渉なしに自らの経験から語ることを可能にするものであり、きわめて重要な資料だといえる。たとえば日本による占領時代（1942-1945）に「慰安婦」とされたロサ・マリア・ヘンソンの自叙伝“Comfort Woman: A Filipina's Story of Prostitution and Slavery Under the Japanese Military（慰安婦：日本軍政下の売春婦、奴隷であったフィリピン女性の物語）”（1999年）、戒厳令下で活動家だったミラ・アギラの自叙伝的詩集“Journey: An Autobiography in Verse（1964-1995）（旅：詩による自叙伝）”（1996年）、また“Pangarap at Hinagpis: Mga Awit ng Kababaihang Maralita（夢と苦痛：貧しい女性の歌）”（1991年）のなかで語られる刑務所の中の女性や低烈度紛争の犠牲となった女性たちの経験は、高い価値をもった証言であり歴史的資料ともなりうるものである。これらの物語は学者、非政府系研究機関、その他の研究者による研究出版物によって補足される。

これまでになされた研究の資料から、私は女性と軍事化について（売春というテーマも含めて）すでに十分な情報が存在していると考えている。マリア・ルイサ・カマガイの“Working Women of Manila in the 19th Century（19世紀マニラの労働する女性たち）”（1995年）ではスペイン植民地時代について、ルイス・カマラ・デリの論文“Prostitution in Colonial Manila（植民地下マニラの売春）”（2001年）ではアメリカ植民地時代について、また日本占領時代については多くの自伝的語りや研究資料があり、米軍基地が存在した時代についても女性資料センター（CWR）のレポートがある。さらに戒厳令時代の女性への人権侵害についても多くの資料がある。これまででもっとも包括的な売春に関する調査については女性資料センター（CWR）のレポートをあげることができる。文献目録では上述したようにこうしたテーマに関する82の資料を紹介している。

では、これら既存の資料を研究するにあたってどのような枠組みが必要だろうか。また更にどのような調査が必要になるだろうか。

フィリピンの女性研究者は日本とその他のアジアの女性研究者と協力しながら「ジェンダーとミリタリズム」というテーマを、植民地化、軍事独裁、そして現在も続く外国軍隊の駐留とグローバリゼーションによって影響を受ける「第三世界女性」の視点から見つめるべきだと私は考える。今日、グローバリゼーション、そして米軍一時駐留協定（VFA）や低烈度紛争政策による外国軍隊の駐留はかつてと同様にフィリピン各地で次のような結果をもたらしている。武力紛争のなかでの攻撃手段としてのレイプの利用、軍事基地や軍事演習地また経済地区周辺での売春の拡大、労働ストライキ現場や刑務所また農村コミュニティでの公権力による女性への暴力、である。

したがって次の事柄に関してさらに調査が必要である。

1. 女性に影響を与える現在の軍事化の各地域での状況を、国軍を国家の抑圧装置とみなした上で調査・研究すること。
2. 米軍一時駐留協定（VFA）、比米両軍による軍事演習、急速に「軍事化」されている経済地区を調査・研究すること。

私は上述した研究領域をフィリピン、日本そしてアジアの女性研究者の今後の共同研究の焦点としたいと考えている。

## 「ジェンダーとミリタリズム」に関するフィリピン文献目録

## I 女性、植民地化、そして戦後 (1896-1945)

## A. 女性たちの物語と創造的作品

1. De Jesus, Gregoria. "Mga Tala ng Aking Buhay (Notes on My Life)." Translated from the original Tagalog by Encarnacion Alzona. In ***Pinay: Autobiographical Narratives by Women Writers, 1926-1998***. Edited by Cristina Pantoja-Hidalgo. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 2000.

カティプーナ (19 世紀スペインからの独立運動を闘った革命組織) のメンバーであり、その創始者アンドレ・ボニファシオの寡婦であったグレゴリオ・デ・ジーザスの自叙伝。ジーザスがカティプーナのなかでの自身の活動について語る。

2. ***Estrella Alfon: Her Life in Her Own Words***. Adapted by Edna Zapanta Manlapaz. Quezon City: University of the Philippines Press and the UP Creative Writing Center, 1999.

アルフォン・エストレラのエッセイ、インタビュー記録、短編小説を引きながら、マンラパズがアルフオンの「脚色された (自) 伝記」を描く。「コンポステラ」と題された第5章ではアルフオンの視点から日本の占領が語られる。

3. Henson, Rosa Maria. ***Comfort Woman: A Filipina's Story of Prostitution and Slavery Under the Japanese Military***. Rowman and Littlefield 1999.

慰安婦としての自らの経験をカム・アウトした最初のフィリピン女性、ロサ・マリア・ヘンソンの自叙伝。ヘンソンは抵抗ゲリラ運動にも参加している。

4. Lopez, Maria Luna. "Capas Interlude." Originally published in Luna's book ***Sand in the Palm*** (Manila: National Bookstore, 1976). Republished in ***Pinay: Autobiographical Narratives by Women Writers, 1926-1998***. Edited by Cristina Pantoja-Hidalgo. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 2000

ヒダルゴによって編纂された自叙伝のなかでもっともすばらしい作品のひとつ。かつて兵士でありその後、フィリピン大学の学長になったサルバドール・ロペスの妻、ルナ・ロペスが、そのエッセイのなかで彼女の夫が収監されたタルラック州カパスでの経験を語る。戦争下での他の妻や母たちの経験ともあわせて詳述されている。

5. Pestana-Jacinto. ***Living with the Enemy: A Diary of the Japanese Occupation***. Pasig City: Anvil Publishing, 1999.

表題が示すように、日記の形が取られている。20 代後半、妊婦として日本占領時代を過ごした女性の日々の出来事が語られる。

6. Reyes-Magsarili, Gorgonia. ***Through Three Wars (An Autobiography)***. Manila: Regal Printing, 1990.

1893 年に生まれたレイエス・マグサリリは、反スペイン・フィリピン革命、比米戦争、日本占領の時代を生き抜いた。文量は少ないが、実際に目を見た出来事を示すことで、女性が戦争によっていかに影響を受けたかが語られている。

7. Reyes-Montinola, Lourdes. ***Breaking the Silence***. Quezon City: University of the Philippines Press, 1996.

8. Soliven, Pelagia. "Life in the Province During the Japanese Occupation. In *Pinay: Autobiographical Narratives by Women Writers, 1926-1998*. Edited by Cristina Pantoja-Hidalgo. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 2000.

フィリピン軍将校の寡婦である著者が、第二次世界大戦中の彼女の家族の経験を語る。フィリピンゲリラの所在を聞き出すために日本兵が行った嫌がらせなどが記される。

9. Zamora-Macunana, Maria Paz. "Nuestras Ultimos Cinco Dias Bajo el Yugo Japonés." Translated from the original Spanish to English by Leonor V. Montinola. Was privately published in 1997. Republished in *Pinay: Autobiographical Narratives by Women Writers, 1926-1998*. Edited by Cristina Pantoja-Hidalgo. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 2000.

日記のなかで著者は日本占領の最後の5日間のマニラの様子を描いている。防空壕のなかでの自らの生活や、爆発と火災、絶え間ない避難の様子が具体的に描かれる。

## B. 研究資料

1. Camagay, Ma. Luisa. *Working Women of Manila in the 19th Century*. Quezon City: University of the Philippines Press and the University Center for Women's Studies, 1995.

丁寧に調査されたこの本には、家政婦、教員、露天商、助産婦、タバコ工場労働者として働く女性たちに関するデータがまとめられている。「ジェンダーとミリタリズム」研究プロジェクトのメンバーにとって興味深いと思われるのは、“*mujeres publicas*”つまりスペイン植民地時代の売春女性についてのデータである。

2. Cruz, Romeo V. "The Filipina at the Time of Fil-American Revolution." In *Essays on Women*. Edited by Sr. Mary John Mananzan. Manila: Institute of Women's Studies, St. Scholastica's College, 198

この短い論文は反スペイン・フィリピン革命への女性参加に関するものである。

3. De la Cerna, Madrilena. "Some Sources on Women's Participation in the Revolution in Central and Eastern Visayas." In *Review of Women's Studies*. Volume V. No. 2 Vol. VI. No. 1. Quezon City: University Center for Women's Studies 1996.

この論文は反スペイン・フィリピン革命への女性参加についてさらに研究するための資料を紹介している。

4. Dery, Luis Camara. *A History of the Inarticulate*. Quezon City: New Day Publishers, 2001.

アメリカ植民地時代の売春を描いた「植民地マニラの売春」を含むデリの論文集。

5. Hicks, George. *The Comfort Women*. St. Leonards: Allen & Unwin 1995.

朝鮮、フィリピン、シンガポール、ビルマ、インドネシア、中国での日本占領時代における「制度化された性奴隷」を概観している。朝鮮の慰安婦について多くのデータが収録されているが、フィリピンの慰安婦の受難についても書かれている。

6. Kintanar-Thelma and Carina C. David. "Salud Algabre, Revolutionary." In *Review of Women's Studies*. Volume V. No. 2 Vol. VI. No. 1. Quezon City: University Center for Women's Studies 1996.

この文章は1977年にイサガニ・R・メディナが行ったサルッド・アルガブレへのインタビューに基づいたもの。アルガブレは1935年サグダリスタ蜂起（農民蜂起）に参加している。インタビューの中では、自身の経験とともに彼女にとってのナショナリズムが語られる。

7. Locsin-Nava, Ma. Cecilia. "Teresa Magbanua: Woman Warrior." In *Review of Women's Studies*. Volume V. No. 2 Vol. VI. No. 1. Quezon City: University Center for Women's Studies 1996.

教師から主婦、さらに反スペイン運動の革命家となったテレサ・マグバナアの簡潔な自伝。後年、彼女はナナイ・イサを名乗ってパナイ島カピスで闘った。

8. Navarro, Atoy. "Heroism of Filipino Women in the Popular Movements (1896-1935)." In *Review of Women's Studies*. Volume VIII No. 1 January-June 1998.

この文書は「コロルム運動」としても知られる大衆運動への女性参加に関するデータを与えている。1920年代から1930年代のアメリカ植民地時代、貧農を主体とし革命的性格をもって行われたこの運動は、小作農への農地解放、公正な社会制度、そしてすべての外国支配の終焉を求めた。

9. Policarpio, Paz. "The Filipino Women During the Revolution." In *Review of Women's Studies*. Volume V. No. 2 Vol. VI. No. 1. Quezon City: University Center for Women's Studies 1996.

この文書は反スペイン革命と比米戦争の時代の女性に焦点をあてる。フィリピン女性たちがいかにして植民地支配を抑止し、あるいはこれと闘ったのか、多くの歴史的資料を使って詳細に示されている。

10. Talde, Daniel C. "Filling the Gaps in History: Women's Experiences During the Japanese II

Occupation in San Isidro Leyte. In *Review of Women's Studies*. Volume VIII No. 1 January-June 1998.

著者は日本占領時代レイテ島サン・イシドロで16才から22才だった女性11人と男性2人をインタビューした。その中では、どのように女性が家計を支える大黒柱の役を負わされたのか、抵抗運動への女性参加、解放後の経験などが語られる。

11. *War Crimes on Asian Women: Military Sexual Slavery by Japan During World War II*. Edited by Nelia Sancho. Metro Manila: Asian women Human Rights Council India Regional Secretariat and Manila Secretariat, 1998.

フィリピン人軍隊慰安婦についてのおそらくもっとも包括的な研究である。この問題の全体像、証言、訴訟やその他の支援活動に関する資料、そしてジョイ・バリオス、マロウ・サバド、ルス・エルニア・マバングロ、ロラ・ピラール・フリアの詩が掲載されている。

12. *Women in the Philippine Revolution*. Edited by Rafaelita Hilario Soriano. Quezon City: Printon Press, 1995.

スペインからの独立のためフィリピン革命に参加した30人の女性に関する文章を収録した本。

13. *Women's Role in Philippine History: Second Edition*. Edited by Proserpina Domingo Tapales. Quezon City: UP Center for Women's Studies, 1996.

1989年、フィリピン大学デリマン校で開かれた「フィリピン史における女性の役割」学会からの論集である。発表者はアルビナ・ペクソン・フェルナンデス、ソフィア・ロガルタ、ソコロ・レイエス、カロリン・ソブリッチェラ、ゼウス・サラザル、マリー・グレイス・アンピルなど。

## 戒厳令期の女性と軍事化 (1972-1986)

## A. 女性たちの物語と創造的作品

1. Aguilar, Mila. **Journey: An Autobiography in Verse (1964-1995)**. Quezon City: University of the Philippines Press, 1996.

詩集。著者が自ら「赤い時代」と語るこの本の第二巻では、革命運動家としての生活と刑務所での日々が詩で語られている。

2. Guillermo, Alice. **Protest/Revolutionary Art in the Philippines 1970-1990**. Quezon City: University of the Philippines, 2002.

フィリピンの抵抗芸術についてその社会的、歴史的な文脈、理論と実践の発展について論じた本。様々な闘争の描写も含まれる。第13章では女性芸術家たちによって描かれた女性たちの闘争に焦点が当てられる。

3. Quindoza-Santiago, Lilia. **Sa Ngalan ng Ina (In the Name of the Mother.)** Quezon City: University of the Philippines Press, 1997.

フィリピンの女性による詩にとって画期となった作品。戦争と軍事化に関するものとしては、ロレナ・パロス、クラリタ・ロジャ、アドラ・フェイ・デ・ヴェラ、ジョイ・パリオス、ルス・バルカ・マラナン、ゼルダ・ソリアノの詩が収録されている。

## B. 研究資料

1. **MARIANI: A Woman of a Kind**. Compiled and Edited by Sr. Maria Teresita Bravo. Quezon City: Task Force Detainees of the Philippines 2001.

この本はシスター・マリアナ・ディマラナン (SFIC) の1977年から1995年までのスピーチをまとめたもの。戒厳令下の人権状況、政治犯や人権運動活動家

の受難について語られる。TFDの歴史についても簡単に述べられている。

SFIC: Franciscan Sisters of the Immaculate Conception

TFD: Task Force Detainees

2. Wangdali-Kollin, Estefania. "Heroines in Kalinga: The Chico River Dam. In **Review of Women's Studies**. Volume VIII No. 1 January-June 1998.

コルディレラ地方のチコ川ダム建設プロジェクトに反対した勇気ある女性たちの記録。退職教師カテリーナ・ボノアエン (76)、タングラッグ女性協会の元会長アンゲリタ・アウイラン (60)、ロウレアナ・アウイング・パスダッグ (40)、カリンガ女性団体連合の創始者レティシア・プラート (50)、フェリザ・バユガオ・タカリック (66) など。

## III 現代の女性と軍事化 (1986-2005)

## A. 女性たちの物語と創造的作品

1. Barrios, Joi. **Ang Pagiging Babae ay Pamumuhay sa Panahon ng Digma (To Be a Woman is to Live at a Time of War.)** Manila: Institute of Women's Studies: St. Scholastica's College, 1990.

女性、軍事化、売春、女性への暴力に関する詩を収録。

2. Cruz-Lucero, Rosario. "Demons." In **Herstory**. Manila: Babaylan Women's Publishing Collective, St. Scholastica's College, 1990.

ネグロス島における軍事化についての短い文章。

3. **Pangrap at Hinagpis: Mga Awit ng Kababaihang Maralita (Dreams and Woes: Songs of Poor Women)**. Quezon City: Gabriela and Institute of Women's Studies, 1991.

都市貧民女性、先住民女性、貧農女性などさまざまな階層の女性たちによる詩とライフ・ヒストリー。刑務所内での女性の境遇、低烈度紛争の影響に立ち向かう作品を収録。

4. **Woman and Religion**. Edited by Sr. Mary John Mananzan. Manila: Institute of Women's Studies, St. Scholastica's College, 1988.

論文、個人史、関連する宗教的礼拝式文を収録。私たちの研究プロジェクトとの関連で特に興味深いのは、軍によって夫を殺された貧農女性、オデンの生涯 (p.113)。

5. Santos, Aida F. **Violence Against Women in Times of War and Peace**. Quezon city: UP Center for Women's Studies, 2001.

この本は戦時下での子どもと女性に対する虐殺、平時における暴力と性奴隷制の両方を射程とする。トラフィッキングとグローバリゼーション、性的搾取による健康への影響、平和状態を想像する必要性などが論じられる。

#### B. 研究資料、記事、インタビュー

1. Carling, Joan. "Indigenous Peoples, the Environment and Human Rights in the Philippines: the Cordillera Experience." Report found in the website of the Asian Social Issues Program.

コルディレラ地方の先住民に関する包括的資料。ダムと立ち退き、鉱業と環境破壊、コルディレラの大衆運動、軍事作戦、グローバリゼーションの影響、進行する軍事化に関するデータを収録。

2. Carling, Joan and Benedict Solang. "Militarization in the Cordillera Region, The Philippines." In **Indigenous Affairs** no. 2/2001. Published by the International Work Group for Indigenous Affairs.

書名が示すようにコルディレラ地方での軍事化に関する包括的文書である。著者らはコルディレラ民衆連合に参加している。

3. "Cordillera Peasant Woman Harassed by Hoechst. In **Laya Feminist Quarterly**. Volume 2, No. 4. 1993.

カリガ州の農民、エルミニア・アボンゴンが経験した嫌がらせに関するレポート。彼女はヘキスト(\*ドイツの多国籍企業)の職員に連れ去られ尋問されたことがある。

4. Hilsdon, Anne-Marie. **Madonnas and Martyrs: Militarism and Violence in the Philippines**. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 1995. Copy made.

民族解放闘争に参加したフィリピン女性たちへのインタビューを収録。政府軍と解放軍、両方についてジェンダーとセクシュアリティに基づく分析が行われている。

5. **Her Stories (Investigative Reports on Filipino Women in the 1990s)**. Edited by Cecile C.A. Balgos. Quezon City: Philippine Center for Investigative Journalism 1999.

フィリピン社会のすべての階層の女性たちに関するレポートをまとめたもの。私たちの研究プロジェクトとの関連で興味深いものとしては、"Raped in Jail (監獄のなかのレイプ)"、売春関連では "Angeles Revisited (アンヘレス再訪)"、"A Trade in Innocents (無垢な者たちの売買)"、ミンダナオのムスリム女性ゲリラについて "In Battle Gear (戦闘装備を身につけて)" など。

6. Lanot, Marra. "Bobbie Malay Surfaces." In *National Midweek*, 27 August 1986. Republished in *Dream Sketches* by Marra Lanot. Pasig: Anvil Publishing 1991.

7. Luz, Catherine. "U.S. Military Bases and Global Response." Providence: The Watson Institute for International Studies 2004.

周辺住民や環境に有害な影響を及ぼす米軍基地を批判する社会運動に関する検証・調査。売春、レイプ、女性に対する暴力などジェンダー的課題に関係する米軍基地の地域的影響についての調査も含まれる。

8. "Oppose Red-baiting and Assault Against Gabriela Members, Seek Justice for Victims of Political Repression!" *Bulatlat*. Volume 2, Number 24, July 21-27, 2002. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org). Copy provided.

この声明はガブリエラのメンバーと支持者に対するアピールでもある。北部コタバトのベンジャリン・ヘルナンデス、Mindoro・オリエンタルのマニエラ・アルバリロ、ロドリガ・アポリナールなど軍事化の犠牲となった女性たちの記録が収録されている。

9. *Recipes for Healing: Gender-Sensitive Care for Women Survivors of Torture*. Edited by Nancy Pearson, June Pagaduan-Lopez. Quezon City: Psychosocial Trauma and Human Rights Program and the Centre for Integrative and Development Studies, University of the Philippines 1998.

10. "Tribeswoman Hurt in DND Dispersal." *Bulatlat*. Volume 2, Number 28, August 24, 2002. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org). Copy provided.

ベニルダ・コプランガンの国防省前で先住民に対して行われた強制排除のレポート。45人が警棒で頭部を強打された。

11. Tuazon, Bobby, ed. *Pumipiglas 3: Torment and Struggle After Marcos (A Report on Human Rights Trends in the Philippines Under Aquino, March 1986-June 1992)*. Quezon City: Task Force Detainees of the Philippines 1993.

1986年から1992年までの人権状況に焦点があてられる。マラッグ溪谷からの難民カルメン・ゴンザレス、人権活動家エヴリン・パライス・セラノへのインタビューも収録されている。

12. "*Women of Courage and Conviction.*" *Philippine Human Rights Update*. Volume 16 No. 1. Quezon City: Task Force Detainees of the Philippines.

拘留者特別調査会 (TDF) ジャーナルに掲載された文章。次のものが含まれる。"Women Activists: TFD Partner Advocates (女性活動家: フィリピン拘留者特別調査会のパートナーたち)"、エレノア・コンダが書いた "Gender and the International Criminal Court (ジェンダーと国際刑事事裁判所)"、"Luzvimin Samahang Nayon (土地への闘いは続く)"。

#### IV 軍事化に関するその他の資料

##### A. フィリピンでの軍事化に関する資料

1. "2004: Year of Open Terror." *Bulatlat*. Volume IV. No. 44, December 5-11, 2004. Alipato Publications. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org)

2004年の軍事化に関する情報をまとめた文章。人権団体カラパタンによる記録リストを掲載しており、



その中では 2004 年に報告された 570 件と、アロヨ大統領が就任してからの 3,488 件の人権侵害事例が示されている。これらのなかで 45 人が殺害されている。

2. Bengwayan, Abigail. "Group Decry Atrocities in the Cordillera." *Bulatlat*. Volume IV, No. 45, December 12-18, 2004. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org). Copy provided.

コルディレラ人権連合 (CHRA) によるレポート。同団体はコルディレラ行政地域で 590 人が人権侵害の被害者となったと報告している。

3. "Ex-President' s Son in Congress Row with Peasant Solon." *Bulatlat*. Voluyme IV, No. 32, September 12-19, 2004. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org). Copy provided.

ハシエンダ・ルイシタをめぐってタルラック州選出のベニグノ・アキノ Jr. 下院議員とバヤン・ムナのラファエル・マリアノ下院議員が行った討論に関する記事。記事ではハシエンダ・ルイシタの工業転用、農業労働者の経済状態、約 14 人の死者を出すにいたったストライキに対する強制解散処置などについて議論されている。

4. "From Development Aggression to Militarization." IF No. 61/September 11, 2002. IBON Foundation, Inc.

ミンドロ島での軍事展開についての記事。同島では 10 人が殺害され、1,500 戸が移住させられている。

5. *IBON 2003 Briefing Packet*. Available at the IBON Foundation Inc.

コラソン・アキノからフェデル・ラモス、ジョセフ・エストラダ、グロリア・マカパガル・アロヨまでの各政権の経済的、政治的評価をまとめたもの。収録されているフィリピン国軍 (AFP) と新人民軍 (NPA) およびモロ・イスラム解放戦線 (MILF) との軍事的対立についてのデータは、研究上とくに有益だろう。

6. *Iron Hand, Velvet Glove: Studies on Militarization in Five Critical Areas in the Philippines*. Quezon City: World Council of Churches, 1980.

the Ecumenical Movement for Justice and Peace in the Philippines (正義と平和のための世界キリスト教会運動) がまとめた 69 ページの調査報告書。

7. "Neutralizing Bayan Muna." *Bulatlat*. Volume IV, No. 6, March 7-13, 2004. In [www.bulatlat.org](http://www.bulatlat.org). Copy Provided.

ナウハン市の副市長ジュヴィー・マグシノ、バヤン・ムナの地域コーディネーターであるレイマ・フォルツの殺害事件についてバヤン・ムナの全国議長サトロ・オカンポへインタビューを収録。

8. *PGMA' s Strong Republic: Building a Culture of Impunity (Human Rights Under the Arroyo Government, January to December 2003)*. Quezon City: Task Force Detainees of the Philippines 2004.

フィリピン拘留者特別調査会 (TFDP) の現場担当者による人権状況レポート。市民的、政治的、経済的、社会的、また文化的な権利侵害について報告がなされる。これと併せてカラパタンからのレポートも参照されたい。このレポートはフィリピン拘留者特別調査会 (TFDP) のウェブサイトから PDF フォーマットで入手することができる。

9. Zwick, Jim. "Militarism and Repression in the Philippines." In *The State as Terrorist: The Dynamics of Governmental Violence and Repression*. Edited by Michael Stohl and George A. Lopez. Westport, Conn: Greenwood Press 1984.

フィリピンでの戒厳令時代 (1972-1986) の軍事主義に焦点があてられる。

## B. 世界での軍事化に関する資料

1. Copelon, R. "Gendering War Crimes: Reconceptualising Rape in Times of War." In *Women's Rights, Human Rights, International Perspectives*. Edited by J Peters and A. Wolper. New York and London: Routledge 1995.

2. Enloe, Cynthia. *Does Khaki Become You?: The Militarization of Women's Lives*. Boston: South End 1983.

3. Enloe, Cynthia. *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*. Berkeley: University of California Press 2000.

4. Ferris, E. *Women, War and Peace*. Research Report No. 14. Uppsala: Life and Peace Institute 1993.

5. Moser, Carolyn. *Victims, Perpetrators or Actors? Armed Conflict and Political Violence*. New York: Zed Books, 2001.

"The Gendered Dynamics of Armed conflict and Political Violence (軍事紛争と政治的暴力のジェンダー化力学)"、"The Gendered Continuum of Armed conflict and Political Violence (軍事紛争と政治的暴力のジェンダー化された連続体)"と題された二つの章が含まれる。

6. *Women, Militarism, and War: Essays in History, Politics, and Social Theory*. Edited by Jean Bethke Elshtain and Shiela Tobias. Savage Maryland: Rowman and Littlefield, 1990.

## V 売春に関する資料

## A. 歴史的資料

1. Camagay, Ma. Luisa. *Working Women of Manila in the 19th Century*. Quezon City: University of the Philippines Press and the University Center for Women's Studies, 1995.

この文献目録のIの項ですでに紹介した本である。この中には"mujer indigena"つまり19世紀の売春についての章が含まれている。

2. "The Crowning Infamy of Imperialism." Philadelphia: American League of Philadelphia, 1901. In <http://www.boondockNet.com>. Copy given to research team from Japan.

この文章はアメリカ人ジャーナリストによって書かれたものであるが、フィリピンでの売春宿の許認可制度、行政の取り締まりに関して記されている。私たちの研究プロジェクトとの関係で特に興味深いのは、ミンダナオ・スルー諸島の公的売春宿 (official prostitution house) に関する記述である。

3. Dery, Luis Camara. *A History of the Inarticulate*. Quezon City: New Day Publishers, 2001.

「第8章植民地化マニラの売春」と題された章を含む。この章ではスペインおよびアメリカ植民地時代の売春が論じられる。また日本人が経営する売春宿に関する興味深い記述や、タフト総督の「(売春婦は) 軍事的必需品だ」という言葉の引用も収録されている。

## B. 現代的資料

1. Acosta, Paricha. "Oldest Prostitution District in the Philippines." Red Pen Publishing Website. Copy provided.

セブ島カマガヤンの赤線地区についての記事。収録された歴史資料集によればこの売春地区は 1920 年代にすでに存在している。

2. Barstow, Anna Llewelyn, ed. **War' s Dirty Secret – Rape, Prostitution and Other Crimes Against Women**. Cleveland: The Pilgrim Press, 2000.

性的奴隷、軍事紛争における攻撃手段としてのレイプ、女性と米軍、そして国際的応答に関する論文が収録されている。

3. Butler, Jennifer. “Militarized Prostitution – The Untold Story (U.S.A.) In **War' s Dirty Secret – Rape, Prostitution, and Other Crimes Against Women** edited by Anna Llewelyn Barstow. Cleveland: The Pilgrim Press, 2000.

このバトラーの論文にはアジアにおける軍隊売春の章がある。私たちの研究プロジェクトとの関連ではフィリピン・サマール島出身の女性「リタ」の物語が興味深い。バトラーは 1990 年にリタがどのようにして米海軍基地の町オロンガポにいたったのか、を詳述する。「メイド」として働くつもりだった彼女は、14 才のとき売春婦となる。

4. Center for Women' s Resources. Report on Prostitution.

For publication 2005. Final copy ready for lay-out given by CWR for research purposes only.

フィリピンのもっとも包括的な売春に関するレポート。

5. Cullen, Shay, SSC. “The Social Costs of the U.S. Military Bases.” 28 May 1990. Other publication data not available.

カレン神父がオロンガポ市で売春婦たちとともに活動した経験に関する文章。

6. Donna Highes, Laura Joy Sporcic, Nadine Z. Mendelsohn, and Vanessa Chirgwin. **Fact book on Global Sexual Exploitation**. From the Coalition Against Trafficking in Women Webpage. Copy provided to researchers.

女性のトラフィッキングに関する資料集。但し、資料は未整理、未研究、未検証のものである。

7. Enriquez, Jean. “Filipinas in Prostitution Around Military Bases in Korea: A Recurring Nightmare.” Coalition Against the Trafficking of Women 1996.

売春婦として働くため韓国へと出稼ぎに行くフィリピン女性のついで文章。

8. Miralao, Virginia, Celia O. Carlos and Aida Fulleros Santos. “Women Entertainers in Angeles and Olongapo: A Survey Report.” Quezon City: Women' s Education, Development, Productivity & Research Organization (WEDPRO) and Katipunan ng Kababaihan para sa Kalayaan (KALAYAAN), 1990.

NGO 活動家によってまとめられた二つの都市での売春に関する調査報告。1990 年までの資料。

9. Santos, Aida and Ceclia T. Hoffman. “Prostitution and the Bases: A Continuing Saga of Exploitation.” Paper submitted to the International Planning Meeting on Women and Children, Militarism and Human Rights held on May 1-4, 1997 at Naha, Okinawa.

フィリピンの米軍基地についての簡潔な歴史説明と 1997 年までの売春についての記録が示されている。

## VI フィリピン女性に関するその他の有益な資料

ピケットラインでの弾圧についても書かれている。

## A. 書籍

1. **Essays on Women.** Edited by Sr. Mary John Mananzan. Manila: Institute of Women's Studies, St. Scholastica's College, 1987.

この本には以下のような一般的テーマについての論文が収録されている。フィリピン史における女性、女性の諸課題、女性と宗教などである。私たちの研究に背景情報を与えるものとしては、アイダ・サントスの“Do Women Really Hold up Half the Sky? (女性は本当に天の半分を支えているのか?)”、マイタ・ゴメスの“Women's Organizations as Offshoots of National Political Movements (国民的政治諸運動の支流としての女性団体)”、シンシナノラスコの“The Woman Problem: Gender, Class and State Oppression (女性問題：ジェンダー、階級と国家的抑圧)”、キャロリン・イスラエル・ソブリチェアの“Gender Ideology and the Status of Women in Philippine Rural Community (ジェンダー・イデオロギーとフィリピン農村共同体における女性の地位)”がある。

2. **Gender Violence: Its Socio-Cultural Dimensions.** Edited by Carolyn Sobritchea. Quezon city: UP Center for Women's Studies.

ジェンダー的暴力の特徴と形態について論じた本。恋人への暴力、学生の売春、近親相姦などについての文章を収録。

## B. モノグラフ・研究雑誌・その他

1. **Buhay at Pakikibaka ng Kababaihang Manggagawa (Lives and Struggles of Women Workers).** Center for Women's Resources. Makati: May, 1985

電子機械、繊維、食品、タバコ産業で働く女性労働者に関する重要な資料を収録したモノグラフ。ニダ・ドミンゴ、ロルナ・デ・ドイス、ペルラ・メンドーサ、アリン・ノラ工場労働者たちのケース・スタディーや

2. Center for Women's Resources. Various primers.

女性資料センター発行の英語あるいはフィリピン語のさまざまな概説書は、フィリピン女性の状況について有益なデータを提供している。

3. **CSWCD Development Journal.** Volume III Number 2 (December 1998). Published by the University of the Philippines College of Social Work and Community Development

この号では知的生産の場における女性の正当な主張が確証されている。女性・開発研究学部の研究者たちが女性学を大学のなかでの学術分野として確立していく際に果たした役割が述べられる。

4. **Feminist Research Experiences: A Casebook.** Edited by Sylvia H. Guerrero. 1997.

5. “Filipinas for Export.” **Laya Feminist Quarterly.** Volume 3 No. 2. 1994.

チェリー・パディラの“Population and International Migration (人口と国際移住)”、レベッカ・ドッドの“Filipino Maids in Hong Kong (香港のフィリピン人メイド)”、エデン・カサレノの“Of Aprons and Bikinis: Filipinas as Modern Slaves of the World (エプロンとビキニ：現代世界の奴隷としてのフィリピン女性)”などを収録。

6. **IBON Subject Jacket K – Women and Children.** Prepared by IBON Foundation Inc.

IBON テーマ別シリーズは、IBON Facts や英語やフィリピン語の書籍、IBON Special Releases、Institute of Political Economy Journals やその入門書、Education for Development Monthly など で発表された資料を再収録している。K 巻は 910g で 490 ペソ。

7. **Migranteng Kababaihan. Piglas-Diwa Series (Isyu' t tunguhin sa Pakikibaka ng Kababaihan.** Tomo III Blg. 3. Quezon City: Center for Women' s Resources, July-September 1989.

漫画の形で 14 カ国での移民労働者に関するデータが収録されている。

8. “Organizing Peasant Women. **Laya Feminist Quarterly.** Volume 2, No., 4. 1993.

農村の女性に焦点をあてた論文集。テス・オリバロスの “Organizing Peasant Women: Confronting Power Where Power Lies (農村女性の組織化：力が潜在する場所で権力と対峙すること)”、ジョイ・サントスの “Poison in Brown Bottles (茶色の瓶の毒薬)”、ジュディ・タギワロの “Marching Under the Red and Purple Banner (赤と紫の旗の下での行進)” を収録。

9. **Women Agricultural Workers. Piglas-Diwa Series (Issues and Trends About Women in the Philippines).** Volume III No. 1. Quezon City: Center for Women' s Resources, January-March 1989.

以下のテーマを論じたモノグラフ。ハシエンダ(農園)における女性の労働環境、ドール・フィリピンのプランテーションの女性たち、機械化の影響、運動組織への女性参加。

10. “Women Workers: Struggle.” **Laya Feminist Quarterly.** Volume 2 No. 2. 1993.

以下のテーマが収録されている。エイリーン・フリアスの “Women Workers: Life and Struggle (女性労働者：その生涯と闘争)”、エリサ・ティタルビとトゥハンによる “同志ナネッテ：ある女性労働者”、マイエツト・マヌバイの “B 級労働者 (支配された男たち)”、エデン・カサレノの “Pag-oorganisa ng Kababaihang Manggagawa sa NAGC (NAGC における女性労働者の組織化)”。

【河合大輔 訳】